

# 令和5年度 第1回近江の地場産業および近江の地場産品の振興に関する施策推進協議会 議事概要

日時 令和5年7月26日(水)

10:00～11:30

場所 オンライン会議

## 1 議題

- (1) 令和4年度近江の地場産業および近江の地場産品の振興に関する施策の実施状況について
- (2) 令和5年度近江の地場産業および近江の地場産品の振興に関する施策について

## 2 その他

## 3 主な意見

議題(1) 令和4年度近江の地場産業および近江の地場産品の振興に関する施策の実施状況について

- ・事務局より資料に基づき報告と説明
- ・シガリズム体験について、鮎ずし講習会が沖島や水産センターでされていたり、比叡山の延暦寺では写経、座禅が体験できる。滋賀県にはいいもの、宝物がたくさんあるのでそれを掘り起こして加えてほしい。
- ・シガリズムの体験について、ボランティア団体を作って琵琶湖のヨシ狩りを行っており、ヨシから繊維製品も作っている。ヨシ狩り体験とかも入れてもらえるとうれしい。
- ・シガリズム体験は、鹿深の森や信楽高原鉄道といった観光価値のあるものと組み合わせパッケージ化できるといいのではないか。
- ・シガリズムに関するパンフレットは駅でもよく見かける。施策を打ち出すブランディングとしてはこれまでと違う位置づけにあるのかなと感じている。パンフレット

の内容も分かりやすく、シガリズムという言葉も市町村とかとも組み合わせしやすいのではないかと。今後、シガリズムをどのようにブランディングしていくかということが大切ではないか。

- ・令和4年度の事業について、コロナの影響は全体的にあるのか？  
→体験型の事業でという年度後半からはなくなっていると感じており、観光なども盛り返している状況にある。深刻になってきているのは人手不足という状況。コロナの影響についてはだんだんなくなっている状況と理解をしている。

## (2) 令和5年度近江の地場産業および近江の地場産品の振興に関する施策について

- ・事務局より資料に基づき報告と説明
- ・子供たちの育成の中でインプットは大切なので、魅力体験事業に力を入れてほしい。  
→学校との連携を深めてやっていきたいが、事業者の協力も必要不可欠なので積極的に周知にご協力いただけるとありがたい。
- ・魅力体験事業について、小学校では湖魚の調理実習というのもやっているが、学校は授業が多く、新たな取り組みができないという状況と聞いている。教育委員会との連携はどうしているか。  
→事前に教育委員会ともすり合わせをしながらやっているが、今年度の新規事業ということもあって、浸透しきれていない。今後、どんどん浸透させていって、近江の子として定着していくように育てていきたい。
- ・魅力体験事業について、子供たちに体験をとということだが、ものができた次の段階、家庭内に持ち込む、家の中で啓もうしていくことが大事。家庭環境を改築していかないと販路は拡大していかないが、どう考えているか。  
→説明では体験を中心に説明したが、事前に学習してもらうことが大事だと考えている。地域の特性、文化、歴史を学んでもらったうえで体験してもらい、より記憶に定着していけるように取り組んでいる。もちろん家庭の中でもお話をしていただけのような学習を深めてもらえるようにと考えている。
- ・「近江のデザイナー」事業について、県が想定するトップデザイナーがなかなかいないのではないかと。デザイナーに全部お任せするのは難しいのでは。もう少し広く考えて、コンサル業にもたけたトップでコーディネートする人でないといけないのではないかと。

→形を考えるデザイナーという認識は減ってきており、広い意味での取組ができる人という風に解釈していただきたい。

・3年後に販路拡大ということであるが、具体的なイメージは？

→トップデザイナーがデザイナー、事業者と組みながら続けて販路開拓の部分までも一緒にやっていくということで考えている。

・デザイナーには様々な分野のデザイナーがおり、問屋の育成のようなイメージで、客と色々な技術をマッチングできるデザイナーの育成が必要ではないか。ビジネス感覚のあるデザイナーとデザイン感覚のある事業者をどうつくるかが大切ではないか。

・人口が減っていきっている中で、人材確保することがものすごく大変なことになっている。売るための施策が充実するのも大切だが、ものづくりの面から事業を継続していくためには、人材が大事。大手は外国人材の確保もしているが、零細では難しく、手厚い支援をとというのが一番の思い。

→いろいろな団体からお話を聞かせていただいているなかで、人材確保が一番の問題であることは認識している。特に零細企業では従事者が高齢化し、倒産ではなく廃業されているケースが増えていると聞いている。技術の継承も含めてどうやって人材を確保するかということが課題である。なにかいろいろなアイデアがあればいただければありがたい。

・各地域の中小企業者から話を聞いている。物価高騰もさることながら人材に苦慮されている。地場産業が健全に未来につながるためにも価格転嫁し、生産、売れ、従業員が暮らせるという好サイクルにつながればいいと思う。